営農技術情報
畑作 No.2

令和４年　５月　27 日
十勝農業改良普及センター本所（TEL 67-2291）
http://www.tokachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

秋まき小麦の止葉期以降の追肥の考え方

１．秋まき小麦の生育状況

本年は、平年と比べて、高温・多照で経過しており、平年より５日早く止葉期に到達しているほ場が多くなっております。ほ場を確認の上、適切な肥培管理に努めましょう。

表1　止葉期までのきたほなみの生育状況（十勝農業改良普及センター本所）

	これまでの生育期節		
	起生期	幼穂形成期	止葉期
本　年	4月3日	4月30日	**5月21日**
平　年	3月30日	5月１日	5月26日
前　年	3月29日	4月29日	5月26日

２．止葉期以降の追肥の考え方について

止葉期以降の追肥は、止葉期の上位茎数と目標収量（720kg/10a）を指標とします（図１）。

（１）止葉期の管理：倒伏や遅れ穂の発生を避けるため、窒素追肥量は４kg/10a を上限として実施。
上位茎数 900 本/㎡以上の場合：止葉期の追肥は控え、出穂期の追肥を検討。
上位茎数 900 本/㎡未満の場合：窒素追肥量を４kg/10a を上限として実施し、開花期の追肥を検討。

（２）開花期の管理：遅れ穂の発生や高タンパクを避けるため、窒素追肥量は３kg/10a を上限として実施。
高タンパクが懸念されるほ場：開花期の追肥を控える。
低タンパクが懸念されるほ場：開花期の追肥または葉面散布を検討。

※止葉期の上位茎数とは、止葉期における最上位展開葉の葉耳高が 10cm 以上の茎を「上位茎」とし、10cm 未満を「下位茎」として区別するものです（写真）。

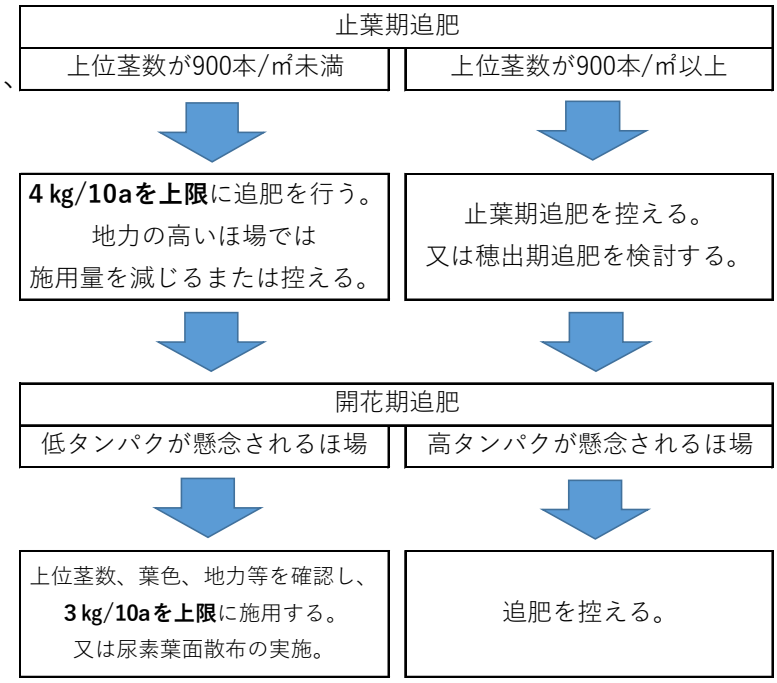
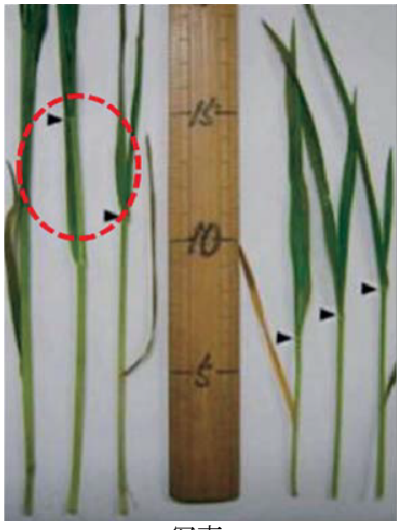


図１　秋まき小麦の止葉期以降の追肥の考え方



写真

止葉期の上位茎（左：葉耳高 10cm 以上）と下位茎（右：同 10cm 未満）の区別
（▶ は止葉の葉耳を示す）

農作業事故が増えていますので、適度に休息をとりながら作業しましょう。